

『社会で強く生きぬく子どもの育成』

もっと未来へ わくわくする未来へ歩みだそう

第005号

令和7年5月30日

学校だより『ふこの』

大東市立深野小学校

校長 世尾 秀和

◆学校運営協議会開催（5月26日）

5月26日（月）に深野中学校の会議室で第1回学校運営協議会が行われました。学校運営協議会（コミュニティスクール）とは、PTA役員及び地域住民、学識経験者等による学校運営への参画、支援及び協力を促進することにより、学校運営の課題改善や児童・生徒の育成を目的に組織された団体です。

深野中学校区（四条北小学校・深野小学校・深野中学校）においても、校長、PTA会長、地域住民の方などが協議会委員となり、大東市教育委員会より委嘱状の授与が行われ、その後学校運営の基本方針の承認をいただくことができました。

また今回、深野中学校の重点方針である「自ら考え、仲間とともに成長を続けることができる生徒の育成」を踏まえて、小学校から中学校へと繋ぐ意識の向上の機会ともなりました。やはり小学校から中学校へと進学する際の子どもたちの不安や壁をどう緩和するかも小中連携という重要な課題と考えております。もう一校の進学先となる谷川中学校についても「落ち着いた環境のもと、子どもたちが自分の良さを存分に発揮できる学校」という学校目標を掲げておりますので、繋ぐ意識を深野中学校同様に持ちながら活動を進めていきたいと思っております。

◆いじめ未然防止への取組み

いじめについては、対応遅れがないよう、事案の重篤を回避するうえでも、早期発見、早期対応が重要であると考えております。子どもたちが安心して学校生活が送れるよう、人権教育や道徳教育等を通じて、自己の生き方を見つめ、いじめを許さない判断力と、命を重んじ、自分や他者を大切にできる人間関係力を培う取組みを今年度も常に考えていきます。

いじめを積極的に認知できるよう、子どもたちの変化に敏感であるとともに、週1回の定期的な課題事項の共有を主要教員と行い、課題整理する場を設けております。また、いじめについてのアンケートを実施し、アンケート結果により、更に詳細な実態把握が必要となれば、個人面談等の取組みも行いつつ、教職員だけではなく、スクールソーシャルワーカー等の外部人材も積極的に活用し、早期解決を図っていきます。

いじめ未然防止のうえで、「思いやりの心」を育むことも大切であると考えます。日常生活の中で、子どもたちは自分が人から認められたり、役に立てたりする喜びの経験（自己有用感）を積み重ねていくことで、自己肯定感も高めていきます。その認められた経験から生まれた自信によって他者の思いを意識することができ、思いやりの心が育まれると考えています。各ご家庭でもいろんな場面でお声がけいただき、「思いやりの心」の育みのご協力をお願いできれば幸いです。

◆5年生の宿泊防災学習（5月23日、24日）

5月23日、24日の2日間、5年生が宿泊防災学習で神戸、淡路島を訪れました。あいにく2日目は雨天での企画実施となりましたが、子どもたちがルール、マナーを守ってくれたこともあり、大きな事故やケガなどもなく、宿泊課外を終えることができました。

今回の宿泊防災学習の目標は、「防災についての知識や考えを深める」、「友だちとの関係を広げ、助け合いながら安全で楽しい集団生活を送る」でした。

防災学習ということで、「人と防災未来センター」へ行きました。人と防災未来センターは、阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承し、防災・減災の実現のために必要な情報を発信する施設となります。施設内では、展示資料や当時の映像などもあり、子どもたちが災害に対する正しい知識を得る活動になったかと思います。その後、南京町探索で食べ歩きやお土産を買ったりする活動を行い、そこから淡路島に移動して、淡路島で採られた瓦づくりをする粘土を使っの彫刻体験を初日は行いました。2日目は、大きな船に乗って、うずしおクルーズで自然の偉大さを間近で見たり、北淡震災記念公園で野島断層を見学したり、震災の語り部さんの講話をみんなで聞いたりしました。各目的地においても、班活動も助け合いながらしっかりと行っていました。宿泊防災学習は充実した2日間になったかと思います。前日等からの荷物の準備やお弁当のご用意など、保護者の皆さまのご協力に深く感謝申し上げます。

